〈資料紹介〉30
『東洋英和女学院資料集　第４号・第５号 M. J. カートメル関係史料』

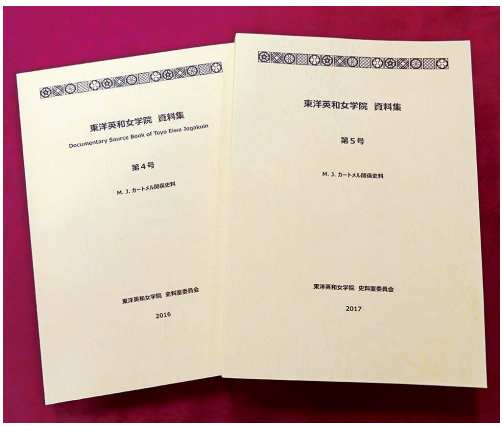
酒 井　ふみよ

史料室委員会では2016年３月に『東洋英和女学院資料集 第４号』（英語版）を、そして今年2017年３月に『第５号』（日本語版）を刊行できたので、担当者としてその紹介を行いたい。

刊行に至るまでの経過

『東洋英和女学院資料集』は、史料室委員会が1985年に『第１号』（ミス・カートメル関連）、1986年に『第２号』（ミセス・ラージ関連）、1987年に『第３号』（ミス・ブラックモア）を刊行したが、その後約30年刊行が途絶えていた。また、この『１～３号』は大半が英文であり、その翻訳は「敬和会」誌に1990年頃に掲載されたが、現在は一般に見ることができない状態であった。

『第４号』･『第５号』の計画は、2010年12月に、ミス・カートメルの親戚筋にあたるアンスティス・ブロムさんがカートメルの遺品、特に書簡などの書類をまとめて学院に寄贈してくださったことに始まる。学院創立者カートメルは長寿でいらしたので、収録資料の年代の幅は大きい。



『東洋英和女学院資料集　第４号・第５号』

カートメル直筆の回顧録や書簡、家族間の書簡などには、信仰の篤いカートメルの思い、こまやかな家族同士の思いやりが込められていた。目が不自由だった晩年の手書きの読み起しは一部クイズを解くようであったが読み解けた喜びが大きく、時間を作っては進めていた。そのうちに、これらはひとり東洋英和の創立者の話として保管するだけではなく多くの方に公開すべきであるし、カナダ人にも読んでもらいたい資料群であると確信するようになった。カナダでは教会の海外伝道について再考と反省が主流となっており、その恩恵を受けた東洋英和からの感謝があまり伝わっていないことを知ったためでもあった。そこで英語科の現・旧教職員、さらにちょうど結成されたばかりの40代の卒業生を中心とする「英和ネットワーク」にも声をかけて転記と翻訳を手伝っていただくことにした。同時に、『資料集第１号』が残部僅少となっていたので、それも合わせて創立130周年にあたる2014年度内には英文・和文合わせて資料集を発行する計画をたてた。

しかしその頃村岡花子ブームが起きて学院資料の需要が高まり内外からの照会が増えていたこと、史料室の目録整備が始められたこと、またカートメル関係資料を正しく理解するにはカナダ史やメソジスト教会の歴史に関する資料を読み込む必要があったこと、予想以上に日本語の先行研究が少なかったことなどが重なってさらに２年間の時が流れた。

編集にあたっては、説明を加えて読みやすさを心がけた。また、『第１号』～『第３号』はＡ５版でハンディだったが字が小さく混みすぎていて読みづらいことから、『第４号』『第５号』はＢ５版に拡大した。

『東洋英和女学院資料集　第５号』のおもな内容

口絵・カートメル略歴・家系図
第Ⅰ章　M. J. カートメル関係史料：ブロム夫人寄贈コレクション
ミス・カートメルによる回顧、書簡、覚え書き
ミス・カートメルが受け取った書簡
他の書簡 …… ①
会議報告書・スピーチ草稿 …… ②
小冊子：連合キリスト教女子大学設立促進委員会報告書 …… ③
デビッドソン・マクドナルド医学博士伝 …… ④
季節のご挨拶（「カナダ合同教会会報紙より」） …… ⑤
第Ⅱ章　東洋英和女学院資料集　第１号（翻訳） …… ⑥
「ミッショナリー・アウトルック」誌所収のM. J. カートメルの報告
バイブルウーマンの規則
ミス・カートメルの聖書の書き込み
第Ⅲ章　随想―M. J. カートメル（３編） …… ⑦
付　録　リスト（Ⅰ・Ⅱ章の資料の書誌情報） …… ⑧
人名索引・人物写真 …… ⑨
婦人ミッション関連概略年表 …… ⑩

『第５号』解　題

第Ⅰ章　①ブロム夫人寄贈コレクション

カートメルによる回顧、書簡、覚え書き／受け取った書簡／他の書簡

「麻布の学校」と呼ばれていた本校の開校の頃の様子がミス・カートメルによって回想されている他、創立25周年に寄せての祝辞など、創立者の生の声に触れることは大変興味深い。彼女の周辺の人びとの手紙も、当時のそれぞれの立場の様子を知らせてくれる。詳しくは「史料室だより」No.79（2012年11月）で紹介しているので今回は割愛したい。最近判明したのは、齋藤春子からのカードにはさまれていた齋藤實に関する新聞切り抜きが、二・二六事件の数か月前のものであるということだ。事件を知ったミス・カートメルが教え子の悲劇にどんなにか驚きと悲しみに暮れたであろうかと思いやられる。

②会議報告書・スピーチ草稿

大半が、カナダ・メソジスト教会が1925年に他の教派と合同してカナダ合同教会になる直前の婦人ミッションの集会の報告やスピーチ草稿と思われるものであった。集会において海外派遣の宣教師たちの帰国報告を聞く婦人たちは、献金をして送り出す側である。世界が激しく動く中で、彼女たちは異国に住む女性たちや若者たちに教育によって知識が得られること、神の福音が伝えられて魂の救いが得られることを願っていた。彼女たちの活動はまさに婦人運動そのものであり、その手腕は並々ならぬものであったことがうかがえる。婦人ミッション名誉会長のロス夫人やストラチャン夫人のスピーチを読むと、宣教師に負けず劣らずの堅い信仰に裏付けられたアピールに圧倒される。

なかでも、「WMSはクリスチャン女性たちからの、時間・思い・資金と彼女たち自身・その

娘たちからの愛の贈り物です」（p.98）というアピールは非常に印象的である。その発露として例えば、1933年ヴォーリズ校舎が立派に建築された際の総工費の約４分の３はカナダからの送金、すなわちカナダの婦人たちからの「愛の贈りもの」だったことを合わせて思い浮かべることができると思う。

③連合キリスト教女子大学設立促進委員会報告書（ブラックモア/クローソン作成）

東京女子大学が日本で初の女子の連合キリスト教大学として、プロテスタント各派が宗派を超えて協力してできた大学であることを知る人は、今は少ない。そこには東洋英和女学校も、ミス・ブラックモアも大きく関与していた。ブラックモアの設立趣旨を述べる文章には、彼女の日本女性たちへの教育にかける切実な願いが込められている。彼女の願いはさらに東洋英和の中で熟成し、遠く70年後の東洋英和女学院大学設立にもつながっているように思われる。

④デビッドソン・マクドナルド医学博士伝

日本にカナダ・メソジスト教会から初めて派遣されたマクドナルド博士は日本のメソジスト教会の黎明期を支えた人物であるが、初期の東洋英和女学校においても、助言者としてまた校医として欠かせない方だった。この方の生涯が語られている。

⑤季節のご挨拶（「カナダ合同教会会報紙より」）

太平洋戦争のために帰国せざるを得なかった宣教師たちがクリスマスの挨拶を交わしている会報紙である。60名以上の方がたのメッセージに共通の思いはアウターブリッジ宣教師による次の言葉であろうか。

「日本ミッションの仲間の皆様に温かなクリスマスの挨拶を送ります。クリスマスの喜びと平和が国々の間で、すべての人たちの間で現実となるようにという心からの希望と祈りで皆様と結ばれています」（p.169）

そして平和を来たらせるために一人ひとりが何とか自分のできることに励んでいることがわかり胸を打たれる。個人的には、この資料集の中で最も好きな箇所である。それぞれのメッセージもさることながら、その方の経歴や関わった地域、学校、そして戦時中何をなさっていたかを調べると驚くほど豊かな事績が浮かび上がってきたので、簡単な人物紹介を一緒に読めるように組み込むことにした。日本ミッションの人びとがいかにさまざまな形で日本人、日系カナダ人のために尽くしてくださっていたかがここに凝縮されている。

第Ⅱ章⑥東洋英和女学院資料集　第１号（翻訳）

かつて刊行された英文の『第１号』の翻訳である。かつて「敬和会」誌に五味澄子氏による翻訳が掲載されたものに、その後判明した事実と翻訳の再検討を加えて収録した。

ミス・カートメルが本国に書き送った報告や、バイブルウーマン養成のための規則、愛用の聖書への書き込みからは、彼女が伝道と教育に精魂を傾けていた様子が生き生きと伝わってくる。

「聖書の中の小さいカードにはミス・カートメルの筆跡で次のものがある。

信仰をもって仕事をしなさい―
崇高な仕事で必ず成功すると信じて
あなたの毎日の生活に起きることを
平凡だとかとるに足らぬとか考えずに
あなたの最もつまらない仕事でも
それを行うあなたの精神で高めなさい
偉大な善なる生活を目指して
できるだけ向上しなさい。そうすれば―
『より深遠な魂の潮の満ち引きがわれわれの
最も内なる存在へと流れ込み
無知なるわれわれをすべてのつまらぬ心配事
から救い上げてくれる』　ロングフェロー」
（p.257）

なお、カートメル愛用の聖書には他にも書き込みが無数にあるので、書き込みのデータ化を行っていき、今後のカートメル研究に道をつけておく予定である。

第Ⅲ章⑦随想―M. J. カートメル　（３編）

ミス・カートメルについて書かれ従来よく創立記念日礼拝等で引用されたミス・シンプソンによる伝記風の読み物と今回初出の他の２編には、いくつか史実と異なる思い違いがみられる。けれども合わせて読むと、重複して記述されるカートメルの日本伝道と帰国後の活動などを通して、彼女の人物像が浮かび上がってくるように思われる。

付録はこの資料集がより活用されるために苦心して編集した箇所である。

⑧リスト（Ⅰ・Ⅱ章の資料の書誌情報）

収録した資料の詳細な書誌情報である。文書タイトル、概要などを一覧できる。

⑨人名索引・人物写真

人名索引は、方々に名前の出てくる人物を包括して知りたい時や、前の方に脚注が出た人物を後から調べたい時に利用していただきたい。これにより、『資料集』の利用価値が格段に高まったと思う。またできるだけ多くの登場人物たちの顔写真を集めた。写真を眺めていると彼らの肉声が聞こえてくるように思える。

人物写真　M. J. カートメルの近親者たち

⑩婦人ミッション関連概略年表

カナダ・メソジスト教会は合同を繰り返して現在「カナダ合同教会」となっている。その歴史の中に位置づけられる婦人ミッションを正しく理解するために最小限必要な事項の年表である。カナダ史や東洋英和の歴史に重ねていただけると、重層的な理解が得られる材料である。

終わりに

資料集作成のために、30名余りの英和関係者の頭脳と手を煩わした。当初から翻訳を何編もしてくださった大井真理子氏と露木美奈子先生、すべての翻訳チェックをしてくださった松田昭彦先生、ネイティブ・チェックおよび研究者の立場から助言してくださったスィッペル本学特任教授に特に感謝申し上げたい。

手伝っていただく過程でボランティアの方たちからは、「こんな歴史が母校にあったとは初めて知りました」との感想が多く聞かれた。「麻布の学校」が創立されて以降、卒業生が家庭においても社会においても良き働きをなし、人びとに「良い学校」として認められるようになるためには、長年にわたる宣教師たち、カナダの人びとの思いと支援、そして続く日本人教師たちと卒業生の努力があったことを、資料を読むことによって今更ながら知るものである。

この資料集が英和の歩みを知りたい在校生や卒業生のために、今後の年史編纂のために、また日加交流史、キリスト教教育史、女子教育史の研究のために大いに活用されてほしい。日本で紹介されていない関係資料はまだまだ眠っている。今後自校史研究の一環ともなる宣教師研究が、学院の歴史研究とともに英和関係者の間で地道に続けられていってほしいと願っている。

（史料室　嘱託）

『東洋英和女学院資料集』販売のご案内

『第４号』（301頁）2,000円+200円（送料）
『第５号』（335頁）1,500円+200円（送料）
お申し込み及び直接購入は史料室（本部・大学院棟）にて承ります。詳細はhttp://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/publications/をご参照ください。